



シリーズ版 ⑤

認知症の症状

～感情表現の変化～

認知症による記憶障害、見当識障害、理解・判断力の低下のため、周囲からの刺激や情報に対して、正しい解釈ができなくなることがあり、周囲の人が予測しない、思いがけない感情の反応を示すことがあります。

左の4コマ漫画のおばあさんの場合

- 周囲の状況を正しく解釈できなくなっている。
- 笑いながら会話している人たちを見て、自分が馬鹿にされていると感じている。
- 自分の思いがうまく伝えられなくなり、不安も感じている。



人格が変わったような行動を取ったり、感情の起伏が激しくなったりする。

上手く話題を変えるなどの対応を！

認知症の方は、冷たい態度や馬鹿にした発言などには敏感に反応します。

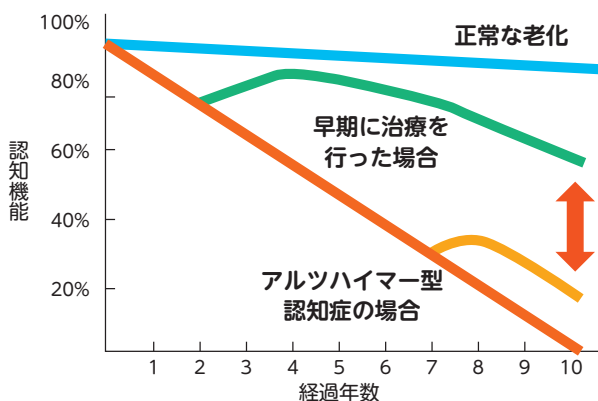
認知症になっても、人を思いやるやさしい気持ちや悲しいと思う気持ちなど、感情はしっかり残っています。

どんなときも、本人の気持ちを理解するように努め、本人の気持ちに寄り添ったプライドを傷つけない対応をしましょう！



認知症は 早期発見・早期治療が重要!

認知症の進行例 ～ 10年後の認知機能の低下～



- ・正常な老化の場合▶ 認知機能 **90%**
- ・発症後の早期に治療を開始した場合▶ 認知機能 **60%**
- ・発症後7年経って治療を開始した場合▶ 認知機能 **20%**
- ・何の治療もせず経過した場合▶ 1年経過するごとに認知機能が **10%** ずつ低下していきます。

軽度認知障害 : MCI

記憶力や判断力などの認知機能の低下はみられるが、まだ日常生活には支障がない状態のこと。何らかの手立てをしないと**約5～7割が認知症を発症**すると言われています。しかし、「軽度認知障害」の段階で、早期治療や生活習慣の改善などを行えば、発症を防ぐことも可能です。

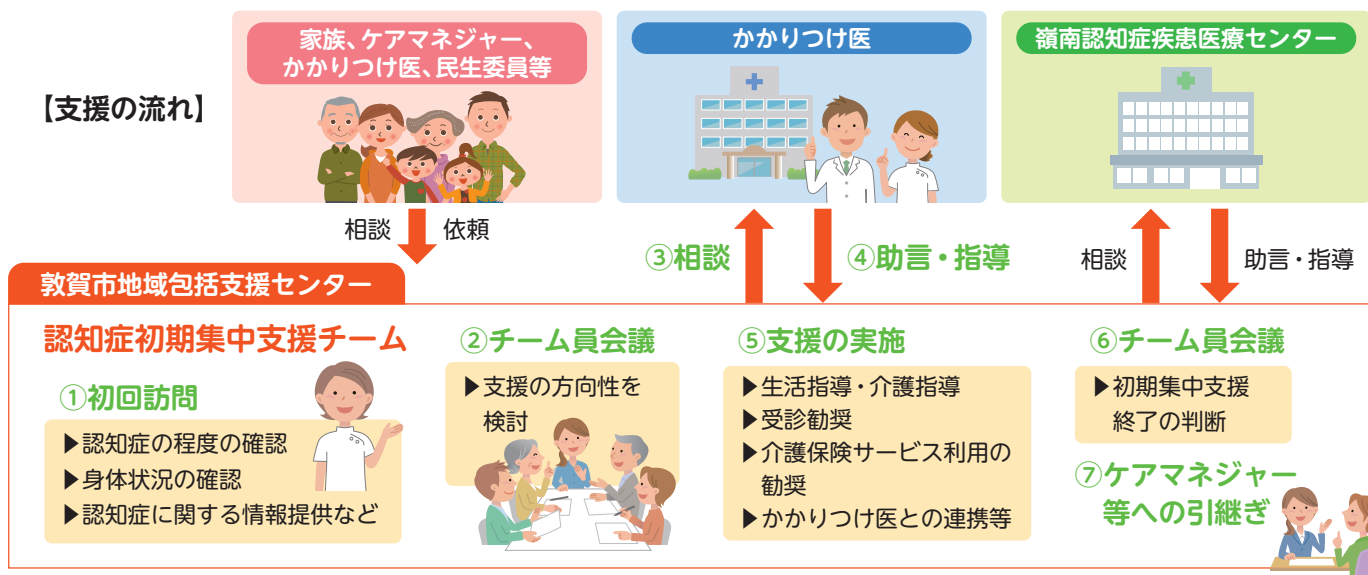
認知症の治療は、早期であればあるほど、認知症の進行を遅らせることができます。また、早期に診断がつくと、本人が自分で今後について意思決定を行うこともできます。



認知症初期集中支援チーム

認知症が疑われる方や認知症の方及びそのご家族に対し、初期の支援を包括的、集中的に行い、認知症の重症化を予防します。

▶ 市内3か所の**地域包括支援センター**に設置



認知症ほっとけんまちハンドブック シリーズ版⑤ 平成31年2月発行

10,000人を達成しました!

発行：敦賀市 長寿健康課 ☎22-8181
協力：敦賀市認知症支援推進協議会



敦賀市 認知症サポーター数：10,599人 (H31.1.31 現在)

※ご依頼があれば、どこでも「認知症サポーター養成講座」が開催できます。長寿健康課までご連絡ください。

次号につづく

